情報公害と不感症・想像力欠乏症

阪部 周二[†]

Information Pollution and Insensitive/Imagination Deficiency Disease

Shuji SAKABE[†]

この200年の文明の発展は長い人類史上最も顕著なものであろう．産業革命，生産革命，そして，この30年間(特に最近の10年)の情報革命である．しかし，この革命に必ず付いてくるものがある．公害である．内燃機関の普及は大量の化石燃料を使い大気汚染，二酸化炭素問題を引き起こした．そして，生産革命では無策的な大量生産により多くの産業廃棄物を生み出し環境汚染問題を引き起こした．そして，今その真只中にある情報革命はどのような公害を引き起こす，あるいは既に引き起こしているのだろうか．今までの革命による公害は人体の肉体的なものを貪るものであったが，この情報革命による公害はどうやら，人体の頭脳や精神に影響するようである．これを「情報公害」と筆者は言っている．

筆者が大学院で担当している「高強度レーザー科学」の講義では，最初に「光とは何ですか」という素朴な質問から始める．高尚な答ではなく，光の性質や発生の概念をどのように理解しているのかの応えを期待して投げかけた質問であるが，たしかに難しい質問であり，完璧な答を期待されていると思う学生は答えに躊躇しているようである。しかし，「反射，吸収とは」などの具体的な質問をすると，賢い学生達は応えてくれる．いずれも断片的，現象的なもので，その詳しい物理を説明してくれるには至らないが．こんなやりとりからいつも感じるのが，この学生は小中高校時代確かによく勉強してきたようで教科書に書いてあることを良く知っているようである．しかし，彼らからは自然や科学に対する純粋な心を強くは感じられない．素朴というか純粋な「なぜ」という不思議な気持ちをいつまでもっていたのだろう．小学校の理科でたいへん奇麗なフルカラーの写真入りの教科書で学んで来た学生達，その後も，書店に行けば奇麗なイラストや想像画の満載した科学雑誌も見られる．さらに，最近はインターネット上で様々な奇麗な画像を観ることができる．上述のような反射や吸収の光の振る舞いもきっと小中学校のフルカラー教科書に鮮やかにそれらしく描かれていたのでしょう．実際に様々な光の現象を体感して不思議だなあと思う前に，絶対に間違いは書いていないと決め込んでいる教科書を見て，覚えて育ってきていると言わざるをえない．学生からの答はいつも「どこかに書いてあるような」表現である．何か感覚的にハッとさせてくれる応答を期待しながら講義を続けている．「小学生の教科書は文字だけに」などと提案すれば，猛反対をうけるだろうか．筆者には理科離れの防止に「フルカラーの奇麗な写真や絵」が効果的とは思わない．大きめの黒文字だけで「光は何」と書かれたページで，目を閉じて想像してみましょう．これのほうが豊かな感性をもつ小学生には良いのでは．昭和20年代最後の生まれの筆者の幼少時代は決して物の豊かな時代ではなかったので，おもちゃもほとんどなく．身の周りにあるもので遊んだり，壊したり，自然のものに見入ったり，近所に建築現場があると終日見ていたり，と様々な物に好奇心を抱いていた．また，教科書は白黒であったので，少なくとも色を無意識に想像していた．

さて，表題の話にもどる．時代は変わって物が豊な時代だが，情報も大洪水である．情報もあまり多すぎるとそれがまるで空気や水のように当然のようなものに思えてくる．気を付けなければならないのは，多くの学生が情報＝真実と思ってきていることである．そして，どのような物でも多すぎると必ず害がある，これが情報公害である．ゴミを分別する知識を持っていれば公害低減に貢献できるように，しっかりとした情報の分別能力が求められる．そして，情報公害の最たるものが不感(動)症と想像力(創造力)欠乏症である．物事，得るのに苦労して初めて感動がある．例えば，筆者らの世代では初めて海外旅行にでかけ時，ヨーロッパなどの歴史的建造物や壮大な自然を目前にして感動した．いまはインターネットで(しかもリアリティーの高い画質で)世界中の名所を観る事ができる．このような状況では，折角海外旅行に行けて現物を目の前にしても「こんなものか．インター

[†]京都大学化学研究所 先端ビームナノ科学センター・レーザー物質科学研究領域(〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄)
[†]*Advanced Research Center for Beam Science, Institute for Chemical Research, Kyoto University, Gokasho, Uji, Kyoto 611-0011*

ネットの写真の方が奇麗なあ．」などと言いながら自分の携帯のメールの方を気にしている若人も多いようである．筆者は大学での講義や時折行う高校生への講演では何とか感動させようと，手を変え品を変え工夫しているつもりでも，反応は極めて鈍である(感動がない)．情報の海の中にいると全てが見えているような錯覚に陥り，もはや想像する対象を見失っており，感動できる事も稀となっている．学生には(小学生にはというべきか)いかにもそれらしく視覚化された遠くの情報だけを見るのではなく，身の回りの物を見つめて，「なぜ」と思う不思議の気持ちと想像力を育んでほしい．想像力をかきたてる媒体は文字＞音声＞＞白黒静止画＞カラー静止画＞＞動画という順に著しくて低下してくる．つまり，現在のIT時代の花形の動画媒体は最も想像力を低下させるものと言える．例えば，読書では文字や行間から想像力がかき立てられる．そして，人の話(音声)を客観的に聞くにも想像力がいる．(同じ事を学生に伝えても，口答で言ったことを聞き流し，電子メールで伝えたことだけを受け取る学生も昨今大変多い．)さらに，自分の考えを話す力や作文力，これも相手がどのように受け取るかを考えながら文脈構成を考えなければならないので想像力が必要になる．このような情報公害の現在では，意識的に好奇心や想像力を高めて行く努力が求められているかもしれない．小中高校と大学での理科・科学教育の難しい時代である．しかし，若いということは限りない可能性とエネルギーをもっているということは間違いないはずである．彼らの前途が「レーザー光」のように輝くように，応援しなければならない．

そして，情報革命に続くようにもう始まりかかっているのが生命革命，これにも必ずや生命公害が付いてくるであろう．人の真の英知が求められる時代はもうそこまで来ている．